

2015年5月15日

2015年3月期 連結決算について

2015年3月期(2014年度)連結決算は、訪日旅客増加に伴う構内営業売上高の増加が牽引し「増収」。一方、発着回数は過去最高を記録したものの、航空機材の平均着陸重量の減少等により営業利益、当期純利益は「減益」。

2016年3月期(2015年度)連結業績予想は、リテール事業を中心に、営業収益は「増収」となるものの、第3ターミナル供用に伴う費用の増加等により、営業利益、経常利益は「減益」の見通し。

1. 航空取扱量について

区 分	2013年度	2014年度	増減①		2015年度	増減②	
	実績	実績	数量	%	見通し	数量	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
航空機発着回数(万回)	22.6	22.8	0.2	100.9	23.5	0.6	102.8
国際線	17.8	17.8	▲0.1	99.7	18.2	0.5	102.6
国内線	4.8	5.1	0.3	105.4	5.2	0.2	103.6
航空旅客数(万人)	3,604	3,531	▲74	98.0	3,595	65	101.8
国際線	3,086	2,930	▲156	94.9	2,937	6	100.2
国内線	518	600	82	115.9	659	58	109.7
国際航空貨物量(万トン)	199	208	9	104.6	205	▲2	98.9
給油量(万kl)	481	462	▲20	95.9	458	▲4	99.2

(1) 2014年度の実績【増減①】

- ▶ 航空機発着回数、国内線発着回数、国際線外国人旅客数、国内線旅客数、仮陸揚貨物量は過去最高。
- ▶ 航空機発着回数は、LCCをはじめとした新規就航や増便等により、3期連続で増加。
- ▶ 航空旅客数は、国際線外国人旅客、国内線旅客は増加したものの、国際線日本人旅客が減少したことから、前期に比べ減少。
- ▶ 国際航空貨物量は、輸出及び仮陸揚が増加したことから、前期に比べて増加し、4年ぶりに200万トン超え。
- ▶ 給油量は、近距離・小型機材路線が増え長距離・大型機材路線が減少したこと等から、前期に比べて減少。

(2) 2015年度の見通し【増減②】

- ▶ 航空機発着回数は、新規就航、増便により、国際線、国内線ともに前期を上回る見通し。
- ▶ 航空旅客数は、国際線でアジアを中心とした訪日旅客の好調さが継続すること、国内線でLCCの旅客が増加することから、全体で前期を上回る見通し。
- ▶ 国際航空貨物量は、米国港湾の荷役遅延に伴う特需があった前期に比べると下回るものの、輸出を中心に堅調に推移する見通し。給油量は、近距離・小型機材路線の比率が増加することから前期を下回る見通し。

2. 連結決算について

(単位:億円)

区 分	2013年度	2014年度	増減		2015年度	増減	
	実績	実績	金額	%	予想	金額	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
営業収益	1,994	2,031	36	101.8	2,106	74	103.7
営業利益	398	387	▲11	97.2	362	▲25	93.5
経常利益	333	333	0	100.0	307	▲26	92.1
当期純利益	199	196	▲2	98.6	202	5	102.7

(※) 2015年度予想における「当期純利益」の数値は、「親会社株主に帰属する当期純利益」の数値となります。

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

(1) 経営成績の概要

営業収益は 2,031 億円（前期比 36 億円の増加）、営業利益は 387 億円（同 11 億円の減少）、経常利益は 333 億円（同 0.1 億円の増加）、当期純利益は 196 億円（同 2 億円の減少）の「増収減益」

- 営業収益は、前期比 36 億円(1.8%)の増収、営業利益は同 11 億円(2.8%)の減益。
 - ▶ 空港運営事業：航空機発着回数は増加したものの、航空機材の平均着陸重量の減少等により空港使用料、給油施設使用料が減少、国際線旅客数の減少に伴い旅客施設使用料も減少したことから、営業収益は前期比 4.3%減の 1,023 億円。除却費等の増加もあって、営業利益は同 40.4%減の 47 億円と「減収減益」。
 - ▶ リテール事業：円安、訪日ビザの免除・緩和等による国際線外国人旅客の増加、店舗の増床やリニューアル等により、子会社の物販・飲食収入及びテナントからの構内営業料収入が増加したことから、営業収益は前期比 14.3%増の 669 億円。営業利益は同 13.4%増の 201 億円と「増収増益」。
 - ▶ 施設貸付事業：利便性向上のため駐車場料金の早朝・深夜割引サービスを導入したこと等により、土地建物等貸付料収入が減少。営業収益は前期比 0.5%減の 309 億円。営業利益は同 1.5%減の 135 億円と「減収減益」。
 - ▶ 鉄道事業：営業収益は前期比 0.4%減の 29 億円。営業利益は同 33.6%増の 6 億円とほぼ前期並み。

(2) 財政状態の概要

- ▶ 資産合計は、2015 年 3 月に完成した第3旅客ターミナルビル建設に係る未払金に充当する現預金残高が増加したこと等により、前期末比 63 億円(0.7%)増の 8,657 億円。
- ▶ 負債合計は、社債の償還等により前期末比 46 億円(0.8%)減の 5,872 億円。有利子債務残高は、同 133 億円(2.8%)減の 4,652 億円、平均金利は前期末比 0.13 ポイント低下し、1.19%。無利子債務を加えた長期債務残高は、同 244 億円(4.7%)減の 4,927 億円。
- ▶ 純資産合計は、前期末比 110 億円(4.1%)増の 2,784 億円。自己資本比率は、前期末の 30.1%から 31.1%へ増加。

(3) キャッシュ・フローの概要

- フリー・キャッシュ・フローは、360 億円のキャッシュ・イン(前期比 70 億円の減少)
 - ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が減少したこと等により、前期比 74 億円減の 625 億円のキャッシュ・イン。
 - ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出が減少したこと等により、前期比 3 億円減の 264 億円のキャッシュ・アウト。
 - ▶ 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済の減少等により、前期比 140 億円減の 306 億円のキャッシュ・アウト。

(4) 2015 年度の連結業績予想

営業収益は 2,106 億円（前期比 74 億円の増加）、営業利益は 362 億円（同 25 億円の減少）、経常利益は 307 億円（同 26 億円の減少）、当期純利益は 202 億円（同 5 億円の増加）の見通し

- ▶ 航空機発着回数、航空旅客数が前期から増加、特に購買意欲の旺盛な国際線外国人旅客が増加すると予想したこともあってリテール事業を中心に営業収益は増収、民営化後最高の見通し。第3ターミナル供用に伴う費用の増加、商品仕入原価の増加等から、営業利益、経常利益は減益となるものの、特別損失の減少及び法人税率の引き下げに伴い当期純利益は増益の見通し。

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

以上